(1) 過疎化の人口学的過程と問題点……黒田俊夫（人口研）
(2) 経済発展過程と人口過疎……鈴木啓祐（流通経大）
(3) 過疎地域人口移動の社会生物学的考察……柳沢文徳（医歯大）
追加発言……東田啟夫（関西医大）

太平洋学術協会マレーシア中間会議

太平洋学術協会マレーシア中間会議（Pacific Science Association Malaysian Inter-Congress Conference）が1969年5月5日から9日までマレーシアのクアラルンプルに在るマラヤ大学（University of Malaya）において開催され，日本からは朝永振一郎協会会長，日高一郎終身会員，檜山義夫東京大学教授，渡辺光お茶の水女子大学教授（地理常置委員会委員長），柿内覧信東京大学教授，正井泰雄お茶の水女子大学助教授等14名が参加した．本研究所の人口移動部長黒田俊夫技官もこれに参加した．

第11回太平洋学術会議（東京）において新設された人口常置委員会では，委員長の I. B. Taeuber のほか，Saw Swee-Hock (General Chairman, マレーシア)，R. K. Anderson (Population Council, アメリカ)，Y. N. Guzevatyi (Senior Research Worker, the Institute of World Economics and International Relations, the Academy of Sciences of the U. S. S. R.)，F. H. A. G. Zwart (South Pacific Commission, Noumea, New Caledonia)，黒田俊夫 (Co-chairman) の6名であった．当初出席が予定されていたオーストラリアの Norma McArthur は都合で参加できなかった．

議事は次のごとくであるが，5日（月曜）から9日までの審議において，8日（木）は Malaysian Family Planning Board と Department of Statistics における討議に当てられた．

(1) 太平洋地域における人口と人口科学，太平洋学術協会と人口常置委員会の役割
(2) 太平洋の諸問題の研究における諸科学の相互関係，協力．太平洋学術協会内における常置委員会の関係
(3) 太平洋地域における文化，社会変動と人口転換——歴史的，現状，将来
(4) 研究開発の分野
(イ)太平洋諸島における人口学的ルネサンス，(ロ)東南アジアにおける多様性と発展，(ハ)大陸中国人口研究の諸問題と可能性，(ニ)太平洋地域の研究のアプローチ

今回の会議の成果を列記すると次のごとくである．

(1) 第12回キャンベラ会議（1971年）における人口シンポジウム（「西太平洋諸国における出生力低下」と「西南太平洋諸島の人口ダイナミックスと人口の将来」の2個）の提案，第13回会議（1976年，カナダのバンクーバーにほぼ決定）における北太平洋人口を取り上げることを内定した．
(2) トイバー委員長の異常な努力によってソ連の積極的参加が実現した．
(3) 人口常置委員会は，その常置委員会としての役割を十分に果たすことができた．

（黒田俊夫記）

エカフェ主催・国内地域の人口推計に関する作業グループ

ECAFE 主催の下に，1969年5月14日から23日まで，タイ国バンコクにおいて，Working Group on Projections of Populations of Sub-National Areas の会議が開かれた．セイロン，台湾，インド，イラン，日本，韓国，マレーシア，ニュージーランド，フィリピン，タイの10か国から10名の専門家が参加し，